

「新年を迎えて」

校長 安藤 徹



また新しい年、2024（令和6年）年がスタートしました。皆さま「新年明けましておめでとうございます。引き続き本年もどうぞよろしく申し上げます。」



さて、例年1月号は干支の話からスタートしているのですが、今年は「辰年」ですね。辰というのはご存じのとおり「竜（龍）」のことですが、十二支の中で唯一、想像上の生き物になります。なぜそのような架空の生き物である「竜」が十二支に選ばれたのか正確な理由は定かではありませんが、十二支の起源である中国ではこの「竜」は権威の象徴で、人々が崇拝する存在だったという記録が残っています。ですので、架空の存在とはいえこの竜は実在する生き物と同等、またはそれ以上の存在だったのかもしれない。

そんな「竜」にみなさんはどんなイメージを抱くでしょうか？架空の生き物だけに何となく未知のミステリアスな面も多く、人それぞれとらえ方も異なるかもしれませんが、一般的には「昇竜」という言葉もあるように『上向きや上昇志向』の象徴であったり、『荒々しい、いさましい、力強い』というようなイメージを持つ方が多いのではないかと思います。

そして、そのような「竜」にまつわる故事成語やことわざはたくさんあります。『竜頭蛇尾（りゅうとうだび）』という言葉は、はじめは勢いがあるが、終わりがふるわないことの例えとしてよく使われます。また、『画竜点睛（がりょうてんせい）を欠く』という言葉もありますが、これは最後の肝心な部分が抜けてしまい、不完全な状態になっていることを表します。

今年の自分の抱負に重ねて考えますと、『竜頭蛇尾』に終わることなく、また『画竜点睛を欠く』ことなく、竜が水や雲、翼を得るように微力ながら自分の持っている力を存分に発揮して、少しでも飛躍できる1年にしていきたいものです。

さて、学校も3学期を迎え、特に3年生のみなさんは岩戸支援学校での3年間の生活を42.195kmのマラソンに例えるといよいよ40km過ぎにさしかかることとなります。私の数少ない経験からもマラソンでは40km過ぎが一番きつく、周囲の人や景色にも全く目がいかなくなったという記憶があります。



岩戸支援学校での生活も、距離でいうと残りわずか2kmとなってしまうましたが、この3学期は、3年生のみなさん一人ひとりにとって大切な3年間のまとめの時間となります。先ほど紹介した「竜頭蛇尾（りゅうとうだび）」や「画竜点睛（がりょうてんせい）を欠く」とならないよう、ぜひこれからの40kmすぎの1日1日の学校生活を大切に、完全燃焼して岩戸支援学校での生活を締めくくってほしいと願っています。

また、1・2年生の皆さんにとってはこの3学期は来年度に向けた「0学期」だと思います。1年生は2年生への0学期、2年生は3年生への0学期として、準備の時期をむかえるのだという気持ちを持って、この3学期を来年度につながるものにしてほしいと思います。そのような気持ちを持って、「竜」のようにどんな時にも前を、そして上を向いて自分の目標に向かって努力してみてください。きっと「昇竜」のように自分を高めていけると思います。

校長からの皆さんへの今年一番初めのメッセージも昨年同様「皆さんなら、やればできる！」です。今年もがんばりましょう。

令和6年1月1日